スポーツかごんまNEWS
http://www.spokago.com
SPORTS Kagoshima KAGOSHIMA

「伝統の一戦」制す！

鹿商 四強入り！

スポ鹿 号外

◇準々決勝（鴨池市民）

鹿児島商	1	4	2	0	1	0	0	0	＝8
鹿児島実	0	0	0	0	1	0	0	1	＝2

二年生・紺屋が好投

第122回九州地区高校野球大会鹿児島県予選第12日は4月5日、鹿児島市の県立鴨池、鴨池市民の両球場で準々決勝4試合があった。

鹿児島商は序盤の集中打で主導権を握り、二年生投手・紺屋諒太の好投で鹿児島実を下した。【政純一郎】

鹿児島商と鹿児島実。県内屈指の名門同士の「伝統の一戦」は序盤で主導権を握った鹿商に軍配が上がり、4強進出を決めた。

紺屋諒太―野方勇大のバッテリーが大きな原動力になった。初回、一死二塁と先制機を作ると、前日の4回戦でサイクルヒットを放った野方が「何も考えず無心で打った」左中間二塁打で先制。これで勢いをつかむと、序盤3回で集中打を浴びせ7―0と大きくリードした。

課題だった投手陣は、二年生右腕・紺屋が救った。これまで4試合はいずれも投手陣がリズムをつかめず、きょうは4人いる投手陣全員で1人2イニングずつ投げさそうかとも考えていた」床次隆志監督）が、紺屋が1人で投げ抜き、強打の鹿実打線を相手に2失点で切り抜けた。167センチ、65キロと小柄な体型だが、度胸と制球の良さが持ち味。それでも「序盤は緊張していて、頭の中が真っ白だった」という。野方は「勝負どころで単調にならないように、相手の打者のタイミングをずらすことを心がけて」二年生投手をリードした。

七回二死まで8―1のコールドペースで進みながら1点取られてコールドは阻まれたが「コールドがなくなってから、落ち着いて投げられた」（紺屋）。本来の度胸の良さが戻り、残りイニングもピシャリと抑えて3季ぶりの4強入りを果たした。

鹿児島のスポーツ情報を確認できるのは
今すぐアクセス→
スポーツかごんまNEWS